

# 三春町

伝統ある町からアニメ文化を発信



1日目	全体会会場出発 → 映像作品を見ながらバス内で昼食 → 福島県環境創造センター交流棟 見学 → 福島ガイナ施設内 見学、体験 → 分科会交流会
2日目	三春町歴史民俗資料館 見学 → 三春町内にて蔵を使った施設など周辺散策 → 福島ガイナ蔵スタジオ 見学 → 八文字屋で昼食 → JR郡山駅

## 群馬県地域づくり協議会事務局 星野 千春

三春町分科会では11名の方が参加。J-VILLAGEから三春町までの移動中に、福島ガイナが制作したアニメ「みはるのハルミーゴ」「たべちゃったっていいのにな」を鑑賞しました。「みはるのハルミーゴ」は、紙で作った人形を動かすという珍しい手法で制作しています。また、地元の小中学生から声の出演したい子を募り「三春の素晴らしいところ」を作文で提出するという面白い方法でオーディションを行っていました。また、「たべちゃったっていいのにな」では福島県の農林水産物を妖精にしたキャラクターで構成され、物語では特産品のエピソードや特徴なども盛り込まれている作品になっていました。「たべちゃったっていいのにな」はYoutubeで配信、再生数が200万回以上になっているそうです。

福島県環境創造センターでは、福島ガイナが製作したキャラクター「こみゆたん」のパネルとガイドさんが出迎えてくれました。2011年3月11日金曜日、午後2時46分からの記録と記憶をシアターにて鑑賞。横壁には当時の新聞記事が時系列で並べられていました。また、原子炉が水素爆発までに至る経緯を事故後の福島第一原子力発電所の模型をもとに説明してくれました。奥へ進むと緑の「環境創造」と青の「環境回復」で色分けされたフロアがあり、中央には地震から現在までの時を刻む3.11クロックがあります。環境回復フロアには、空気中や宇宙から常に降り注いでいる放射線を肉眼で見える装置が設置してあります。さらに奥には環境創造シアターがあり、直径12.8mの球体に入ると360°全方位のスクリーン映像を体験できます。ここでは、「放射線の話」「福島ルネッサンス」「宇宙138億年の旅」「海の食物連鎖」の4番組を観賞しました。

ミュージアム「福島さくら遊学館」では福島ガイナのスタッフさんがガイドをしてくださいました。館内は順

路が制作工程順になっていて、それぞれの制作現場を再現しています。制作スタッフのパネルには台詞があり、表側が発言、裏側は本音の台詞が入っていて、見ていて面白い作りになっていました。また、1コマの線画を描く体験もさせていただきました。

宿泊先の三春の里田園生活館では、三春町町長の鈴木さんが歓迎してくださり、参加者それぞれのアニメに関する地域づくりの発表など、和気藹々とした交流会が行われました。

分科会2日目は、三春滝桜を見学。震災後はお客さんが大幅に減少したそうですが、その後徐々に回復して、現在では多くの方が訪れているそうです。シーズン中は混雑していて、ゆっくりと桜を見学することはできないとのこと。

三春町歴史民俗資料館では、スリッパではなく町で作られた草履を履いて見学。三春滝桜の説明や女性初の世界最高峰エベレスト、七大陸最高峰の登頂で知られる田部井淳子さんから寄贈された器具や装備の展示、三春町内の生活と歴史が感じられる様々な物が展示されていました。

三春町は「蔵の町」とのことで三春町内を散策、三春郷土人形館、なかまち蔵、三春ふれあいの蔵、きたまち蔵など、町中にある蔵を巡りました。三春郷土人形館では、かつて造られていたこけしが飾られ、とて



三春町公用車 愛姫（めぐひめ）

も価値が高い物も展示してあります。また、福島ガイナが管理している三春ふれあいの蔵は、教室やイベントに使用できるようになっていて、見学時は、専門学生が小学生にイラストの描き方を教えていました。

愛姫（めぐひめ）のスタンプラリーも開催していましたが、こちらはスタンプがひとつでもクリアファイルが貰え、季節ごとでクリアファイルのイラストが変わるといふ工夫がされていました。さらに愛姫で盛り上げようと、三春町の公用車が愛姫の痛車にされていたのには驚きました。お昼は三春素麺やほうろく焼きなど、たくさんの三春町の特産物を堪能することができました。

敬遠されてしまいがちなアニメを活用した地域づくりですが、三春町ではこうした工夫で、皆さんが楽し

く参加できるようにされていてとても素晴らしいと思いました。群馬県でも皆さんが笑顔で、楽しく参加できる地域づくりができれば良いなと思いました。



三春ふれあいの蔵

# 榎葉町



1日目	全体会会場出発 → 昼食・オリエンテーション → まち・ひと巡りツアー → 天神岬 → 分科会交流会 → 夜なべ談義 自由参加 ※参加費別途
2日目	朝食@木戸川漁協「漁協 de 朝メシ!」 → 周辺町村の見学 → コンパクトタウン 見学 → 振り返りワークショップ → 昼食 → JR木戸駅

## 群馬県地域政策課 遠藤 匡（榛東村からの派遣）

私が参加した第10分科会榎葉町ブロックは、全11分科会で最多の27名が参加していました。東日本大震災により被災した地域に訪れたことがなかったので榎葉町を選びましたが、同様の理由やテーマに興味を持った参加者が多いようでした。

榎葉町は、福島県浜通り地方の中程に位置し、復興のシンボルであるJヴィレッジも榎葉町にあります。平成27年9月5日に榎葉町全域に発出された避難指示が解除され、現在では、榎葉町人口6,996名のうち、3,560名(50.9%)が町内居住者であるとのこと。(平成30年10月31日現在)津波被災地域の山田浜・前原地区では、現在でもフレコンバックが山積みになっている状況や堤防復旧工事など、未だ震災の爪痕が残っている印象を受けました。

榎葉町の概要として、榎葉町復興推進課から説明を受けた中で、平成27年度頃は、毎日2時~3時まで仕事をするなどかなり大変であったこと、避難指示解

除後の大きな出来事として、『小中学校の再開』子供の声に戻ってきたという話が印象に残りました。全町避難という前代未聞の経験、復興という過酷な業務の中、子供の声がどれほど嬉しかったかと考えさせられました。

ならばみらいの取組として、(一社)ならばみらいから説明を受けた中で、町からの委託事業を含め様々



まなび館（旧榎葉南小学校）